

2 地域素材の教材化に配慮した授業展開例

教科(科目)	日本史 B	単元名	地域社会の歴史と文化
本時の主題	輪中の歴史と江戸幕府の大名統制 (4時間目 / 4時間)		
本時の目標	<p>(1)身近な生活の場を題材とするとともに、地域調査を実際に行うことによって、関心・意欲を高める。また、地域調査や文献研究を通して多様な歴史学習の方法を身に付けさせるとともに、文化財を保存することの意義について気付かせる。【関心・意欲・態度】</p> <p>(2)江戸時代を中心とした治水事業が、幕府の統治政策とどのような関係にあったのかを多面的・多角的に考察する。【思考・判断】</p> <p>(3)調査方法を工夫し、調べた内容をレポートにわかりやすくまとめ、発表する。【技能・表現】</p> <p>(4)輪中地域の歴史や文化を自然条件や政治的・経済的諸条件と関連付けて理解する。【知識・理解】</p>		
指導のねらい	学 習 活 動	指導上の留意点・観点別評価	
<p>・ 自己の課題を設定し、追究する。</p> <p>・ わかりやすい発表ができるように、まとめかたを工夫する。</p> <p>(1～3時間目)</p> <p>-----</p> <p>(本時)</p> <p>・ 調べた内容についてわかりやすく発表する。</p> <p>・ 各発表の要点をまとめる。</p>	<p>・ 輪中の歴史や洪水との闘いがどのようにして行われてきたのか考える。</p> <p>・ 以下のテーマから関心の深いものを選んで調べる。 輪中の特色ある景観とはどのようなものか 輪中や洪水の歴史について 宝暦治水事業はどのような計画で行われたのか 薩摩義士、平田靱負(ゆきへ)はどのような役割をはたしたのか 宝暦治水における幕府のねらいは何であったか ヨハネス=デレーケの三川分流工事について</p> <p>・ 調べるにあたっては、海津町歴史資料館や各町図書館などを訪れる。</p> <p>・ 調べ活動にあたっては別紙資料1～8を自己のテーマにあわせて選択し活用する。</p> <p>・ 資料1は新田開発と洪水の関係を捉えさせるために利用。新田開発が進むほど洪水が増え、年貢高が減少していることに着目し、洪水対策の必要性が高まったことに気付く。</p> <p>・ 資料2と4は宝暦治水の薩摩藩の負担を考えさせるために利用。薩摩藩の財政を圧迫していたことに気付き大名統制の一環としてとらえる。</p> <p>・ 資料3と6は江戸幕府の治水対策を考察させるために利用。長良川及び揖斐川の破堤回数に比べ、木曾川の破堤回数が少ないことに着目し、尾張藩と他藩の関係に気付く。</p> <p>・ 資料5は生徒自身のルーツを調べさせるために利用。</p> <p>・ 資料7は宝暦治水工事の内容を明確にするため利用。自分の身近な場所が舞台になっていることを再認識する。</p> <p>・ 資料8は宝暦治水のねらいを所領関係をもとに多面的に捉えさせるために利用。</p> <p>・ ~ について各班が調べた内容を発表する。</p> <p>・ については、水屋、堀田、水防倉庫、切り割り堤等を具体的に調べ、洪水とともに暮らす人々の苦勞と、これを克服するために様々な工夫がなされてきたことについて調べ、発表する。</p> <p>・ については、資料1・3・5をもとにして、輪中の形成過程や、特に近世に入り新田開発が進むにつれ洪水が増え、治水対策が重要な問題になってきたことについてまとめるとともに、実際の洪水被害の深刻さを聞き取り調査などを行いながら発表する。</p> <p>・ については、資料7等を参考にして、宝暦治水事業</p>	<p>既習知識をもとに考えさせるとともに、より多面的に追究させるようにする。</p> <p>各自が関心をもったテーマについて調べる。</p> <p>何を用いて調べるかを考える。</p> <p>資料館などの利用にあたってはマナーを遵守させるとともに、必要な資料は確実に記録させる。</p> <p>自己のテーマにあった資料を選び取らせ、追究を深めさせる。</p> <p><評価方法> レポートを提出させ、確認 【思】</p> <p>効果的な発表の方法を考える。</p> <p>他者の発表をよく聞き理解を深める。</p> <p>それぞれの発表に対して補足やまとめを行う。</p>	

注1

注2

注3

注4

注5

注6

<p>(40分)</p> <p>・自己評価や感想をまとめる。</p> <p>(50分)</p>	<p>が洪水対策としてどのような計画でなされたのかを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ については、資料2・4等を参考に、宝暦治水事業の困難さを薩摩藩の財政状況や工事の様子をもとに発表する。 ・ については、資料3・6・8等を参考にして、宝暦治水事業を進める上で、幕府から示された条件(工事に必要な人員・物資の現地調達等)や、この地域の所領関係(幕府領、尾張藩領、高須藩領が入り組み、統一的な治水事業ができなかったこと、それが木曾川右岸の治水対策を抑え、木曾川左岸の尾張藩領の洪水増加を防ぐことになる等)から宝暦治水事業や幕府の大名統制について多面的に考察し発表する。 ・ については、今日の3河川の流路が作られたことについて発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・発表を通して、気付いたことや感想をまとめるとともに、自己評価を行う。</p> </div> <p>・各班の発表を相互に評価する。</p>	<p><評価方法> 発表</p> <p>【技】</p> <p>自己の取組を振り返り、次回への動機づけとする。 理解できたことを確認する。</p> <p><評価方法> 重要事項を発問により確認【知】 プリントに記入させ、提出【関】</p>
---	--	--

<指導上のポイントと考察>

本校が位置する海津町は、輪中地帯として有名で、大雨やそれに伴う洪水から生活を守る工夫が古くから粘り強く続けられてきた所である。厳しい自然条件を克服するためにどのような努力が行われてきたのかを、代表的事例である宝暦治水を中心に追究させ、政治的・経済的諸条件と関連付けて考察させるようにする。

宝暦治水は木曾三川の分流工事として名高く、三川流域193カ村に及んで行われたため、本校生徒のほとんどが少なからずその事業についての知識を有しているし、小中学校の時に調査活動を行った経験を持つ生徒もいる。生徒の身近な生活の場や取組やすい事例を取り上げることによって、歴史学習に対する関心・意欲を高めるようにする。

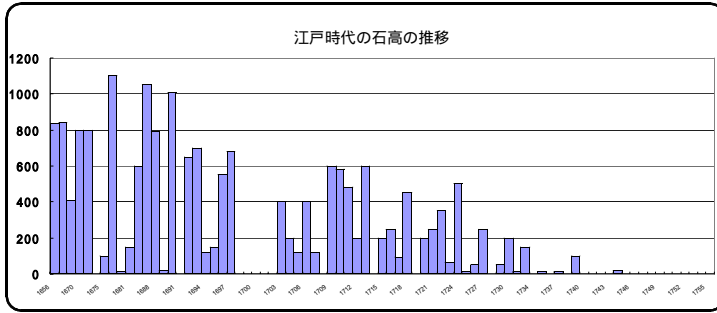
宝暦治水については、多くの場合、平田靱負ら薩摩義士的美談として扱われがちである。この治水事業の実態を多角的・多面的に追究させることによって江戸幕府の大名統制策の実際に迫り、幕府と大名の関係をより具体的に把握できるようにする。また、追究にあたっては、既習の知識を活用させるとともに、さらに深めさせるようにする。そのため、有効な資料をあらかじめピックアップしておくとともに、学校の図書館の資料やインターネットでの検索はもとより、歴史資料館など関連する史跡などを見学したり、聞き取り調査をさせるなど多様な活動を取り入れるようにした。

追究した内容はレポートやWEBページにまとめさせ、わかりやすく発表させ、創造性や表現力を高めるようにする。この際、調べ方、まとめ方、発表の仕方なども並行して学べるように実施する。

- 注1 漠然と調べさせるのではなく、調べる項目を明確に示すようにする。特に、意欲の乏しい生徒に対しては、調べ活動に用いる適切な資料なども予め準備する。
- 注2 地域調査は町の歴史資料館を中心に実施する。時間割変更で午後の2時間を使って実施する。
- 注3 地域調査にあたってはモラルやエチケットを再確認する。また、地域の人々とのコミュニケーションの大切さや自ら学ぶ喜びを体感できるようにする。
- 注4 資料の収集にあたっては文献から抜き出すだけでなく、写真撮影や地図の作成、あるいは聞き取り調査なども取り入れ、発表活動でわかりやすく提示できるように工夫させる。
- 注5 発表方法は、パソコンによるプレゼンテーションなど、効果的な方法や機器を選ばせ、工夫させる。
- 注6 各自が調べた内容についてはよく理解できるが、他者の発表内容について理解が深まらないことがよくあるので、注意深く聞かせるとともに、他者の発表の要点を書き取らせたりまとめさせたりする。

授業に利用した資料の一部

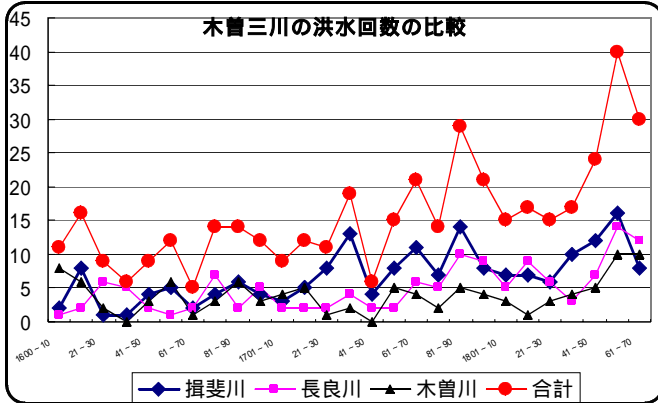
資料1 本阿弥新田の年貢高の推移(「輪中と治水」より作成)



資料2 薩摩藩の財政状況(「鹿児島県の歴史」より)

年代	借銀高(金両)
1616(元和2年)	1000貫余 (2万両)
1632(寛永9年)	7000貫余 (14万両)
1640(寛永17年)	21000貫余 (34.5万両)
1749(寛延2年)	34000貫余 (56万両)
1754(宝暦4年)	40000貫余 (66万両)
1801(享和元年)	72600貫余(117万両)
1807(文化4年)	76128貫余(126万両)
1827(文政10年)	320000貫余(500万両)

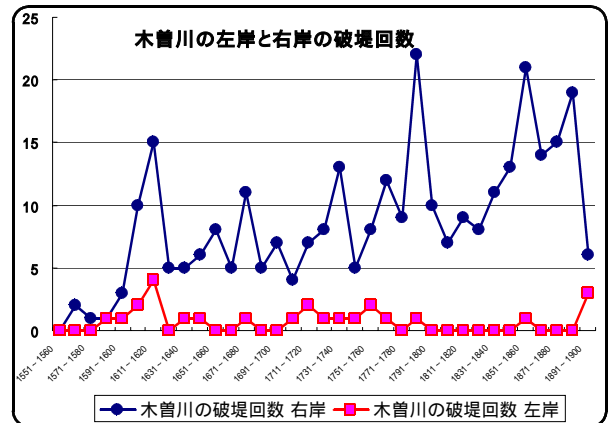
資料3 木曾三川別水害発生件数(「岐阜県災異誌」より作成)



資料4 宝暦治水の費用負担(「薩摩義士」より作成)

薩摩(鹿児島)・・・美濃(岐阜)	約1200km
加わった薩摩藩の人	約1000人
・切腹した人	53人
・病死した人	33人
使った費用	約40万両 (約320億円)
幕府の使った費用	約1万両 (約8億円)

資料6 木曾川の左岸と右岸の破堤回数(「輪中と治水」より)



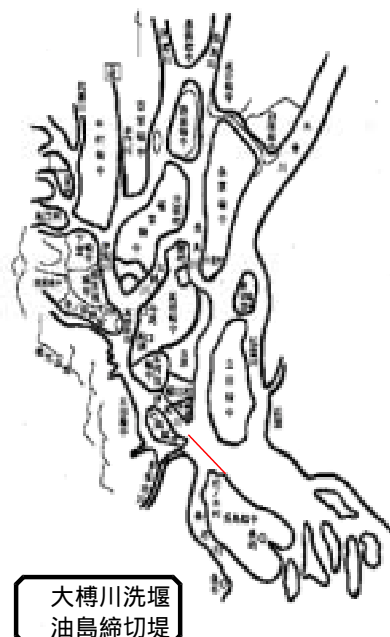
資料5 岐阜県内の主な輪中の形成年次

(「輪中と治水」より)

年代	揖斐川以西	揖斐川～長良川	
江戸時代	・下笠(1615～36)	・古高須(1600～06)	
	・根古地(1641頃)	・金廻(1601～18)	
	・太田(1648)	・福東(1625)	
	・大垣(1653)	・本阿弥(1648)	
	・飯之木頃(1656)	・牧(1650)	
	・釜段(1658)	・帆引新田(1657)	
	・大巻(1661)	・森部(1665)	
	・高柳(1670)	・墨俣(1668)	
	宝暦治水	・多芸(1670)	・穂積(1705)
		・江月(1693)	・古橋(1705)
・祖父江(1693)		・高須(1732)	
・綾野(1693)		・牛牧(1757)	
・蛇持(1709)		・河渡(1764)	
宝暦治水	・大墳(1797頃)	・則武(1802頃)	
		・島(1831)	
		・大明神(1839)	
江戸時代末		・中須(1840)	
		・中村(1841)	
明治以降	・十六(1869)	・福東(1870)	
	・静里(1875)	・北今ヶ淵(1872)	

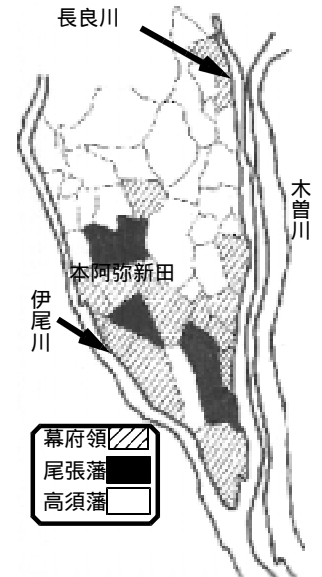
資料7 宝暦治水の主な工事計画

(「薩摩御手伝普請所目論見絵図」より作成)



資料8 江戸時代末期の領地

(『海津町史』より)



大樽川洗堰
油島締切堤